平成24年7月期
決算説明資料

SANNO

株式会社　山王

～貴金属表面処理加工分野のリーディングカンパニー

平成24年9月

- 決算概要と見通し
  - 平成24年7月期　業績
  - 平成25年7月期　見通し
- 戦略と業務の取り組み状況について
- ご参考（会社概要等）

平成24年7月期 決算ハイライト

▶ 売上高：スマホ等が全地域で好調大幅増収（＋14億円）

▶ 営業利益： 296百万円と黒字化

（単位：百万円）

	H23/7	H24/7			
			対前期差異	期初計画	対計画差異
売上高	6,450	7,821	＋1,371	6,170	＋1,651
営業利益	△495	296	＋791	8	＋288
経常利益	△508	338	＋846	23	＋315
当期純利益	△2,541	601	＋3,142	2	＋599

コスト分析

▶ 原価率・販管費率ともに大幅改善、売上総利益が倍増

▶ 大幅増収と組織スリム化が影響

▶ 営業利益率3.8%

（単位：百万円）

	H23/7		H24/7		
		構成比(%)		構成比(%)	前期比(%)
売上高	6,450	100	7,821	100	―
売上原価	5,631	87.3	6,197	79.2	△8.1
売上総利益	819	12.6	1,624	20.8	+8.1
販管費	1,314	20.3	1,328	17.0	△3.4
営業利益	△495	―	296	3.8	―

平成24年7月期　売上高詳細

▶ 国内外共に増収、特に中国が復調

地域別売上高	H23/7		H24/7			（単位：百万円）
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
国内(＊)	4,514	69.9	5,221	66.7	＋707	＋15.7
中国	1,008	15.6	1,466	18.7	＋459	＋45.6
フィリピン	927	14.3	1,133	14.4	＋207	＋22.3

＊親子間取引含む、連結合計と一致せず

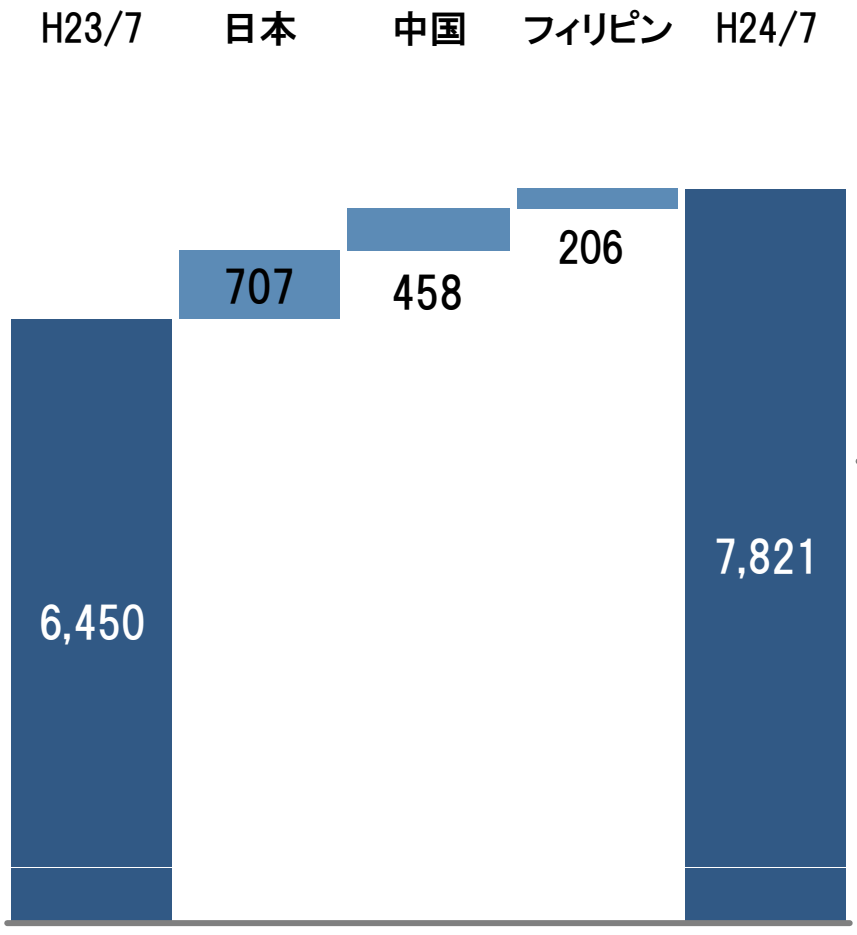
▶ 事業別売上高比率に大きな変化はなし

事業別売上高	H23/7		H24/7			（単位：百万円）
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
表面処理加工	5,866	90.9	7,015	89.7	＋1,149	＋19.6
精密プレス加工	582	9.1	806	10.3	＋224	＋38.5

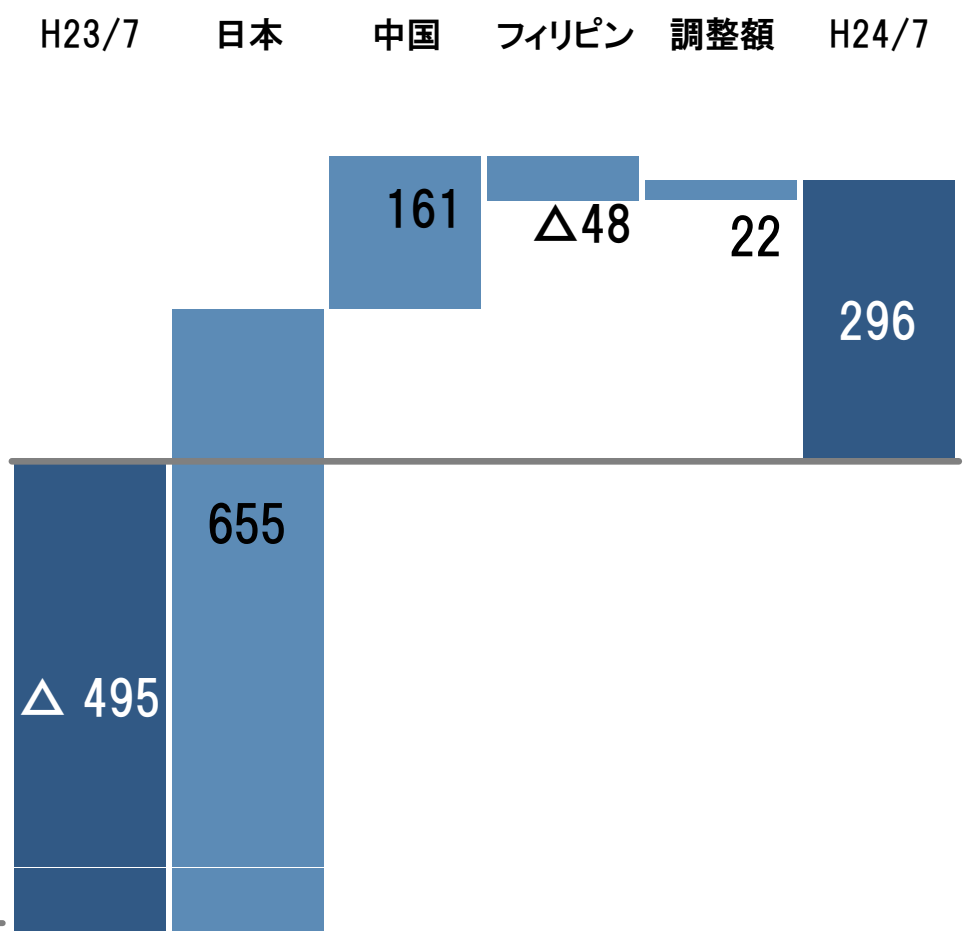
地域別状況：　国内･中国が復調

売上

（単位：百万円）



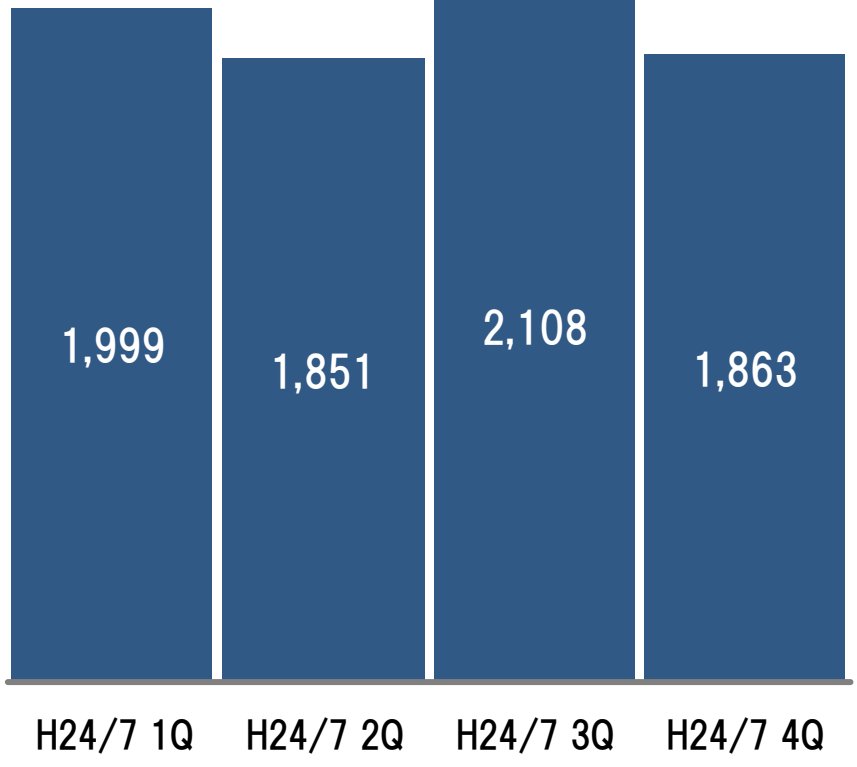
営業利益



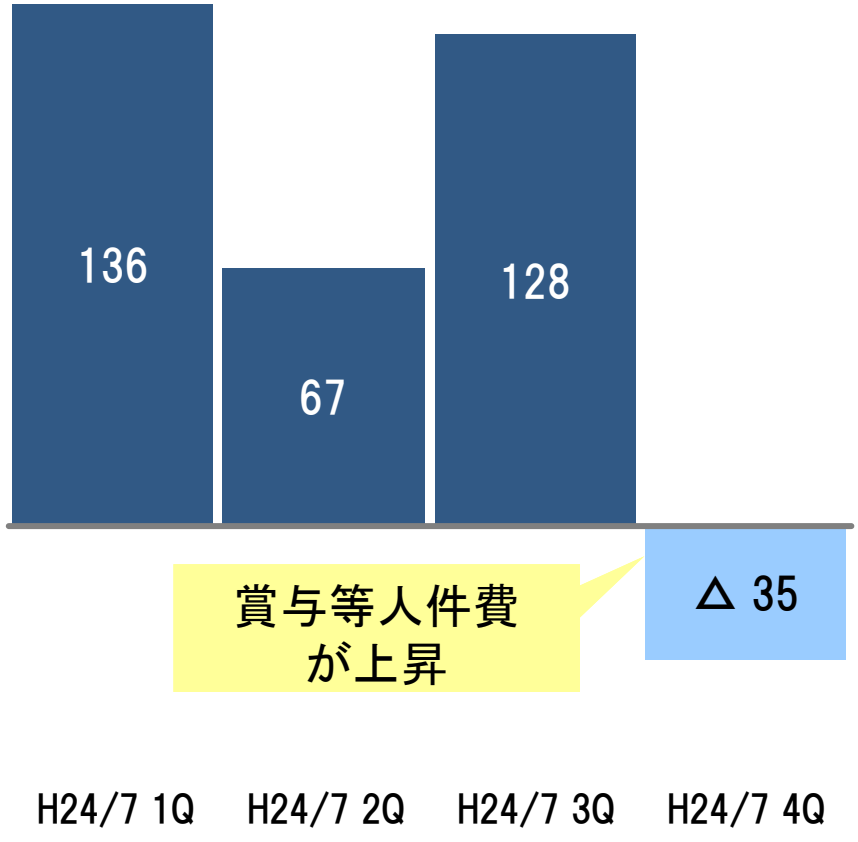
四半期別状況： 4Qは費用を計上

売上

（単位：百万円）



営業利益



平成24年7月期業績回復の要因

▶ スマホ向けを中心に通期に亘り受注堅調

- ▶ 国内　ニッケルバリア案件を中心に主要顧客から依頼増える
- ▶ 中国　スポットめっき案件が堅調で復調

▶ 上半期はタイ洪水で、追加需要が発生

- ▶ 国内　タイでの生産予定分を急きょ当社で引き受けることに

▶ 当社製品に対する安定した評価

- ▶ 国内　付加価値ある高品質案件に一定の評価
- ▶ フィリピン　日系電子部品会社からの受注増加傾向変わらず

バランス・シートの状況

▶ 株主資本比率は67.7%に上昇 （前期末は61.2%）

▶ 純資産額 6,323百万円 （同上5,773百万円）

（単位：百万円）

	H23/7 末	構成比(%)	H24/7 末	構成比(%)	増減額
株主資本	6,296	61.2	6,897	67.7	＋602
資本金・資本剰余金	1,832	―	1,832	―	―
利益剰余金	4,519	―	5,121	―	＋602
その他の包括利益累計額	△522	―	△574	―	△52
純資産合計	5,773	56.1	6,323	62.1	＋550

キャッシュ・フローの状況

▶ 黒字化でフリー・キャッシュ・フローがプラスに

▶ 現預金残高は、30億円弱

（単位：百万円）

	H23/7末	H24/7末	増減額
現金・現金同等物期首残高	4,037	3,130	△907
営業活動キャッシュ・フロー	△43	309	＋352
投資活動キャッシュ・フロー	△21	△218	△197
フリー・キャッシュ・フロー	△64	91	＋155
財務活動キャッシュ・フロー	△703	△317	＋386
現金・現金同等物期末残高	3,130	2,885	△245

- 決算概要と見通し
  - 平成24年7月期　業績
  - 平成25年7月期　見通し
- 戦略と業務の取り組み状況について
- ご参考（会社概要等）

足元の事業環境

① 地域

- ▶ 国内　ニッケルバリアを中心に付加価値製品に需要あり
- ▶ 海外　中国・フィリピンともスマホ関連の需要は根強い

② 顧客

- ▶ 国内　主要顧客の海外への生産移管が進行
- ▶ 海外　アジア需要を背景に日系企業との取引は順調に拡大

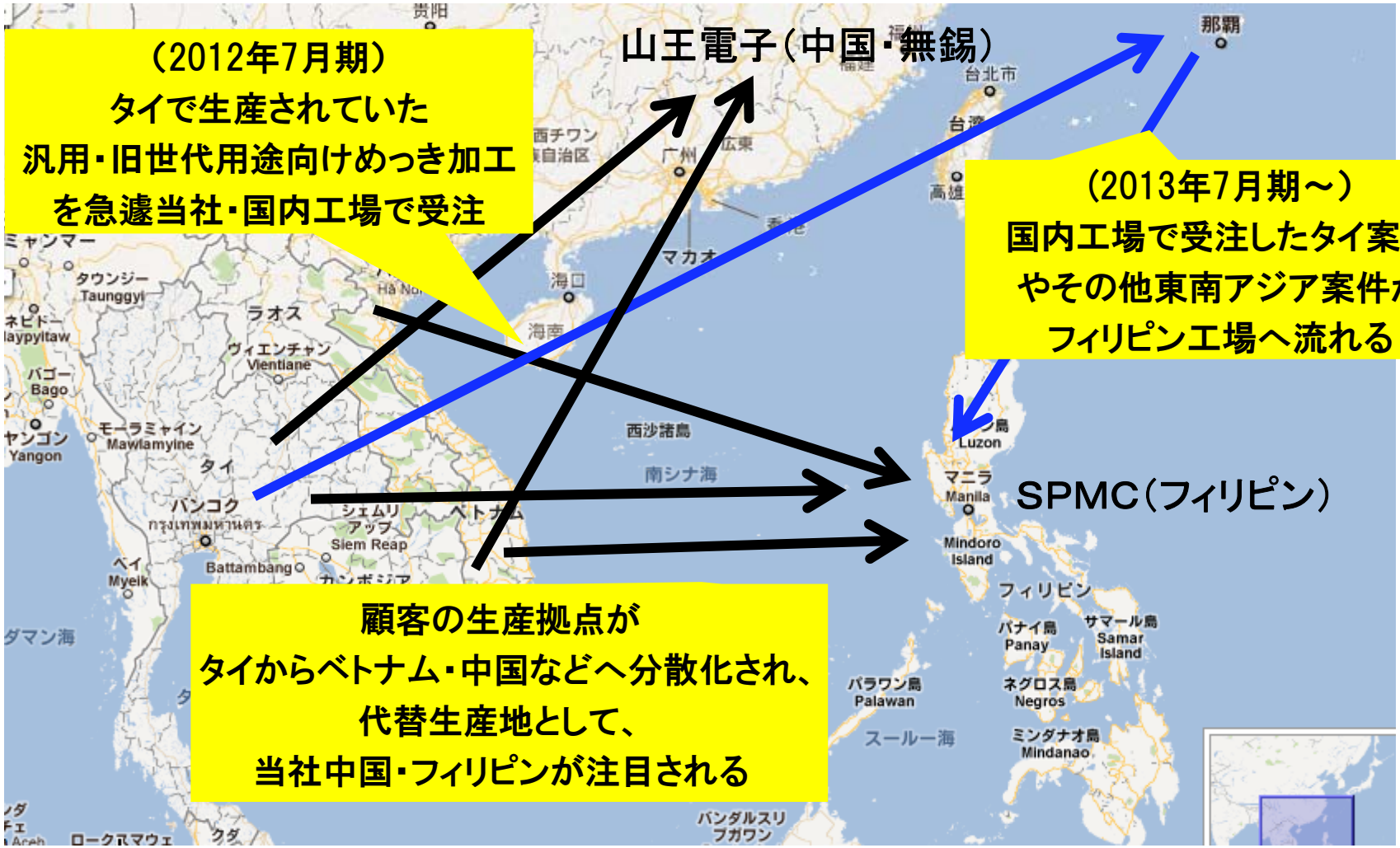
③ 製品

- ▶ スマートフォン・タブレット端末など先端案件は順調に拡大中
- ▶ 汎用品もフィリピンで東南アジアからの引き合い多い

タイ洪水が東南アジアの需要を取り込む契機に

▶ 当社生産拠点が注目・活用される

当社・国内各工場



平成25年7月期業績予想

- ▶ 不確定要素多く、業績に対しては慎重な見通し
- ▶ 売上高：7,346百万円 （前期比△6.1％）
- ▶ 営業利益： 減収想定だが、前期予想より増加を見込む

（単位：百万円）

	H24/7・実績	H25/7・計画	差異
売上高	7,821	7,346	△475
営業利益	296	84	△212
経常利益	338	83	△255
当期純利益	601	55	△546

平成25年7月期業績見通しの考え方

平成24年7月期決算(実績)

海外拠点での日系企業向け、
スマホ向け対応も順調に拡大

＋

国内はスマホ向け需要の伸長、
経営合理化推進の結果として業績が改善

＋

しかし、製品価格の下落、取引先の生産拠点
の海外移管といった不確定要因も存在

平成25年7月期(見通し)

収益基盤は回復したが、
事業環境の不確実性を考慮し、慎重に算出

平成25年7月期　売上高見通し詳細

▶ 国内は、事業環境に対する慎重な見方を反映

地域別売上高	H24/7・実績		H25/7・計画（単位：百万円）			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
国内(＊)	5,221	66.7	4,871	66.3	△350	△6.7
中国	1,466	18.7	1,550	21.0	＋82	＋5.5
フィリピン	1,133	14.4	1,236	16.8	＋102	＋8.9

＊親子間取引含む、連結合計と一致せず

▶ 構成比率：大きな変化なし

事業別売上高	H24/7・実績		H25/7・計画（単位：百万円）			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
表面処理加工	7,015	89.7	6469	88.1	△546	△7.8
精密プレス加工	806	10.3	877	11.9	＋71	＋8.8

設備投資・研究開発費計画

▶ 設備投資額： 海外で生産拡大投資を実施予定

- ▶ 中国：新規投資中心　プレス新設＋「車載用」ラインに改造
- ▶ フィリピン：既存ライン改造
- ▶ 国内は付加価値製品対応を強化

▶ 研究開発費： 新規事業開発に注力

（単位：百万円）

	H24/7・実績	H25/7・計画	差異	前期比
設備投資額	239	350	＋111	＋46.4
減価償却費	281	457	＋176	＋62.6
研究開発費	96	120	＋24	＋25.0

- 決算概要と見通し
  - 平成24年7月期　業績
  - 平成25年7月期　見通し
- 戦略と業務の取り組み状況について
- ご参考（会社概要等）

成長戦略

1. 海外事業へ経営資源を重点配分

東アジアの商流の変化に対応して、

既存生産拠点を強化（中国・フィリピン）

2. グローバルで一貫加工体制を強化

中国で「プレス＋めっき」一貫加工体制を実現へ

3. スマホ以外の分野を拡大、安定収益基盤を確立

「車載分野」へ進出（既に中国で開始）

4. 新規事業開発体制の強化

「脱めっき」も視野に社長直轄の新規開発室を新設

発展する東アジア市場で事業を拡大

東アジア： 世界の工場・世界最大の消費地
めっき需要は、順調に拡大している

（例）スマートフォン・タブレット端末の最大の生産地・消費地

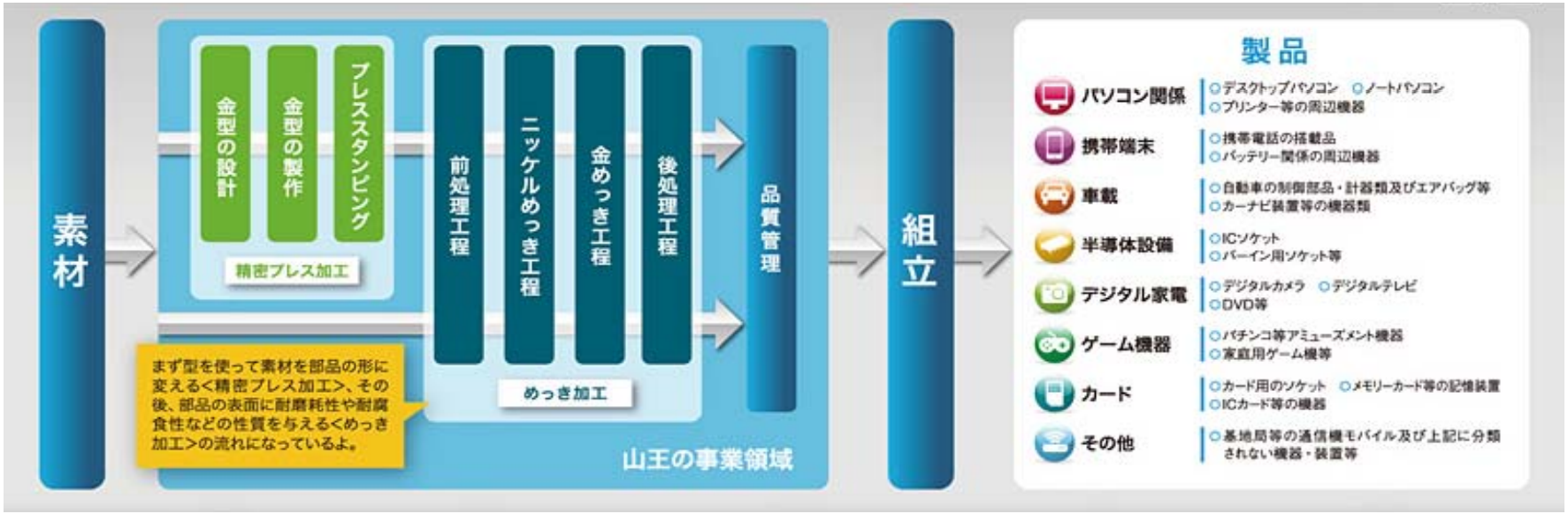
地域別戦略

山王 （国内）	めっき加工の「高付加価値」拠点 「脱めっき分野」への事業拡大
＋	
山王電子 （中国）	「スポットめっき」を軸に 「プレス・めっき一貫加工体制」確立
SPMC （フィリピン）	日系企業の進出を踏まえ 「日本から技術移転」を推進

中国で「プレス･めっき一貫加工体制」を充実

山王電子(中国)でプレス対応を実現へ

国内のみ存在していたプレス設備の導入を決定



（目的）

1. 価格競争力･付加価値力を装備
2. 国内からの移管案件に対し迅速に対応
3. ローカル企業囲い込みの手段として活用

海外で車載分野への進出をスタート

スマホ・タブレットに次ぐ「第2の収益源」をめざす

山王電子(中国):「車載部品用ライン」に改造、稼働開始

当社の技術力・品質に対する高評価

＋

日系企業としての安心感・管理体制の高さ

フィリピンでも東南アジアの車載分野獲得を推進

収益源を多様化させることでリスクヘッジを
図ると共に、海外事業の第2の柱として期待

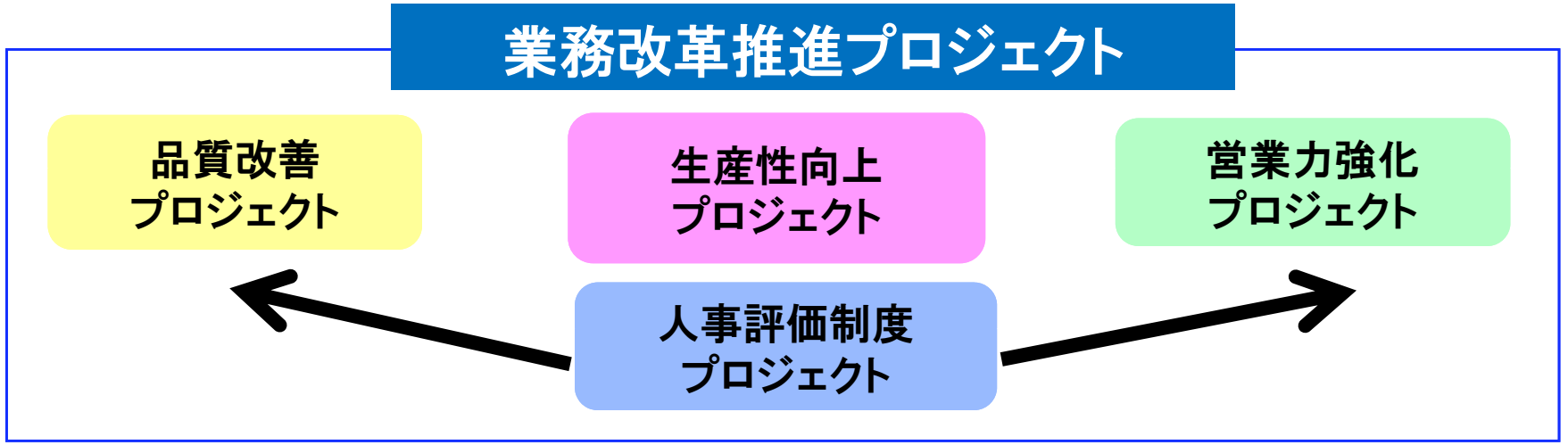
社長直轄組織「新規開発室」が誕生

社内若手プロジェクトチームの提言が具体化

「新規開発室」（平成24年7月～）

DNAである「加工技術」は活かしながらも

「脱めっき」を含め、全く新しい柔軟な発想で
新規収益事業を開拓するための組織を新設



復配を実施

平成24年7月期： 年6円に復配

「継続企業に関する疑義」は解消

成長軌道の中で
内部留保を充実し、海外事業拠点の拡充など
将来の成長へ向けた資金を確保するが、
株主に対する還元は積極化

平成25年7月期(予想)： 年6円

►ご参考（会社概要その他）

会社概要：　株式会社山王（サンノー）

表面処理加工＋精密プレス加工

事業内容	：	電子部品を対象とした貴金属表面処理加工・精密プレス加工、 金型設計・製作
創業	：	昭和33年8月
代表者	：	代表取締役社長　甲山　文成
所在地	：	本社：神奈川県横浜市港北区綱島東
資本金	：	9億6,220万円（平成24年7月末現在）
売上高（連結）	：	78億21百万円（平成24年7月期）
事業拠点	：	日本・中国・フィリピン
従業員数（連結）	：	515名（平成24年7月末現在）

当社の特徴

1. 立地のバランス

日本の他、海外かつ成長性の高いエリア（中国・フィリピン）に
生産拠点がある

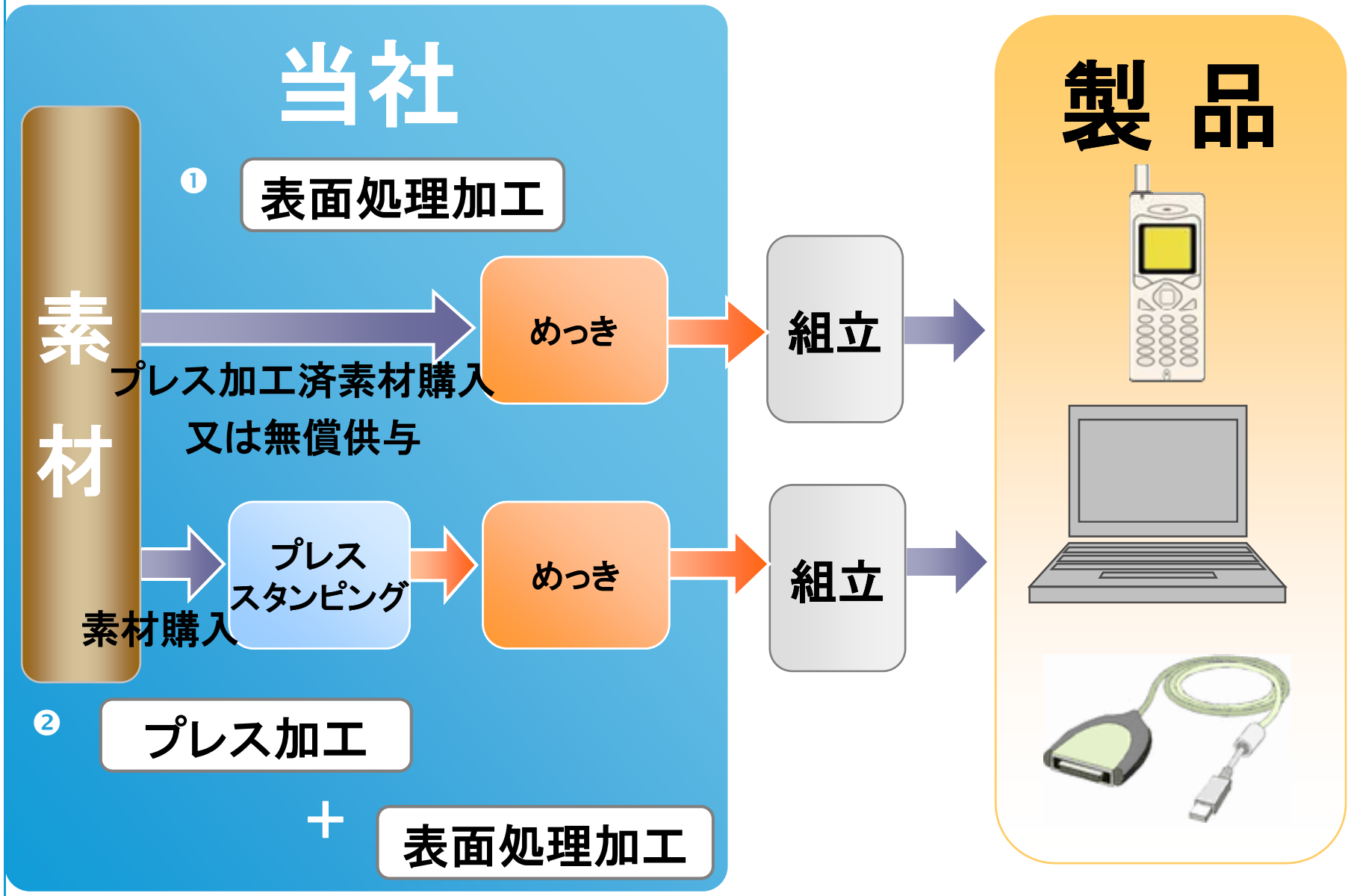
2. めっきサプライチェーン確立による付加価値の提供

プレス加工から表面処理まで一貫加工体制が確立
上流から下流まで「めっきを取り巻くサプライチェーン」が確保され
顧客からの発注を受けやすい事業構造

3. 機動的かつスリム化した組織

主要顧客のニーズを探るために、「営業と技術が一体化」

ビジネスモデル：①表面処理加工　又は
②プレス加工＋表面処理加工



当社コア技術＝表面処理が求められる理由

■ 素材（金属）の性能を高める

通電性

電子部品には、半永久的に
電気の流れが良いことが求められ、
そのため「金めっき」が施される。

耐食性

金属にはサビ（酸化）が発生。
サビには金が最も強いため、
「金めっき」が、
さらに性能向上の為に、
「後処理（防錆処理）」が施される。

半田付性

電子部品をボードに実装する場合に、
半田（鉛フリー）を活用。
その際、ピンに「金めっき」または
「半田めっき」されていると、スムーズ
かつ強固な装着が可能。

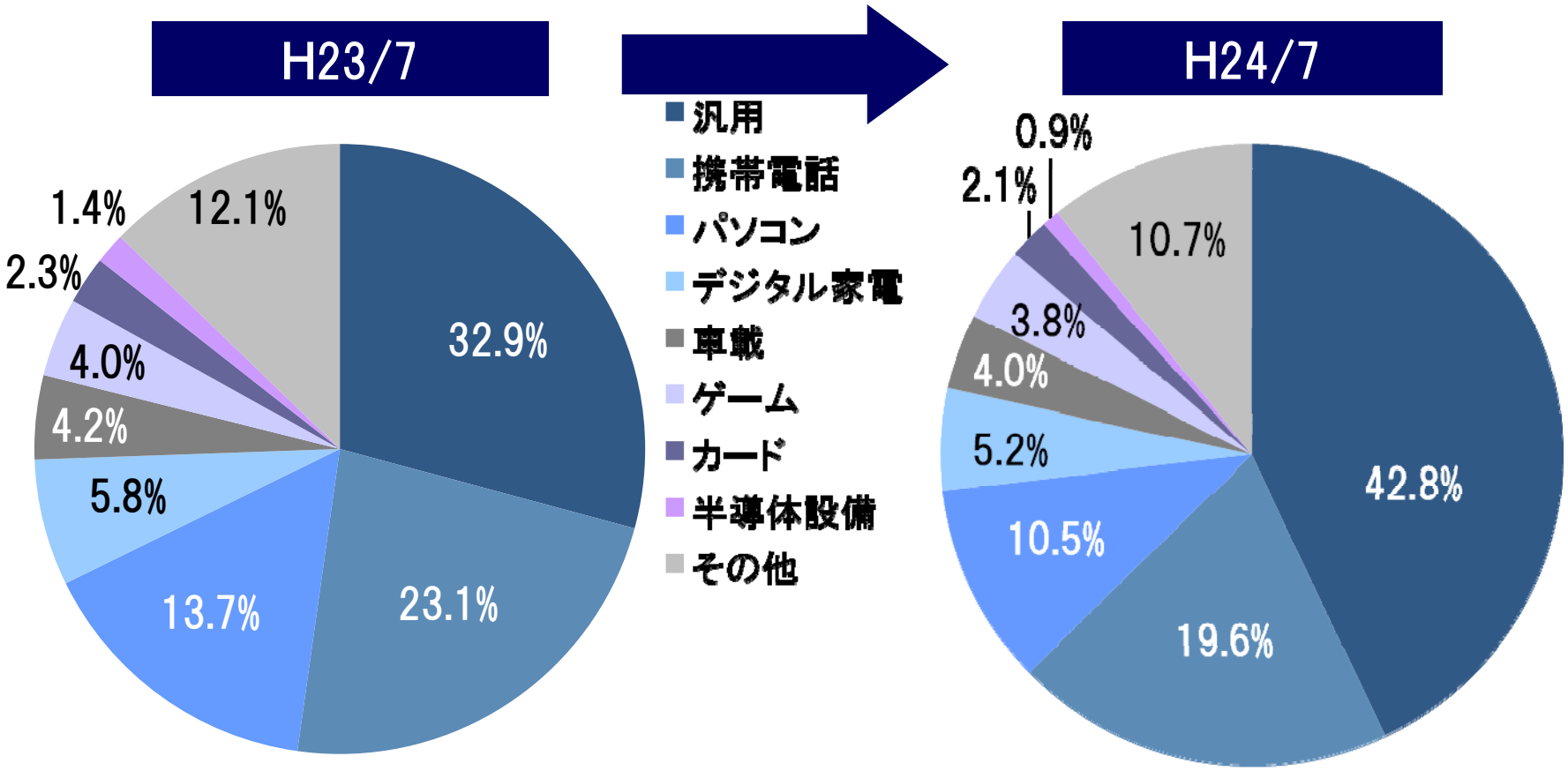
挿抜性

コネクタを接続する際に
スムーズに挿入、抜去が
できる方法として、
「金めっき」及び「後処理」が最適。

用途別売上構成の推移（国内･ご参考）

▶ 汎用品の伸び率が大きく、全体の4割を占める

テレビの販売不振が影響しデジタル家電の比率下落



中国・フィリピンに2大生産拠点

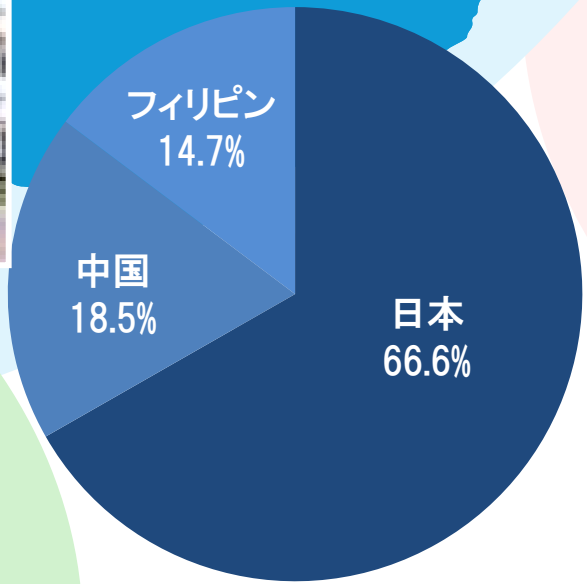
山王電子(中国・無錫)

H24/7
海外生産高：33.2%

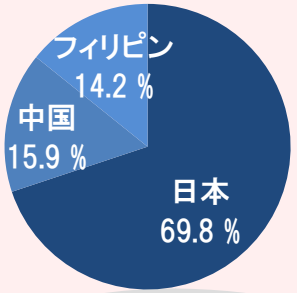
地域別生産高の内訳

SPMC(フィリピン)

H24/7期



H23/7期



本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくはいまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、平成24年9月25日現在において利用可能な情報に基づいて、当社により平成24年9月25日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

平成24年9月

株式会社山王

平成24年7月期 決算説明資料